

教育フォーラム「不登校をききえる」  
不登校・ひきこもりと地域に求めらるるま  
の  
〜子どもと歩む保護者たちの思いと誓い  
添って〜

【日 時】2019年1月26日(土)午後  
2時〜4時30分

【会 場】ひかりプラザ (203・204号  
室)

【講師】広木 克行さん (神戸大学名  
誉教授)

【参加者】73名

(前回のひきこもりがその子どもたちが通う  
学校の先生たちを見ますと、大人の言うことをち  
ゃんと聞く子に育ってほしいという方も思ってい  
るらしい。大人の言うことを聞く子を求めている  
学校と、自ら判断して自主的に活動するようにな  
まされて育ってきた子どもたちとの間のずれが  
小学校低学年から始まっていて、それが子どもた  
ちの中でかなりのストレスになってくるらしい。  
しかも学校が終わったら放課後だから、子どもた  
ちは自分たちの時間だと思っっているのだけれど、  
宿題がものすごくいっぱい出てくるので、だっ  
ても自分たちの時間が来ないのです。

### 学校の現実と子どもたちの現実のミスマッチ

来月私は宮城に行くのですが、宮城の方で私を招  
いてくれた人たちが子どもたちのアンケートを  
とってくれたのです。特に小学校1年生、2年生  
の子どもたちのアンケートをとって比べると、  
「学校楽しみに行っていたのに、いまは嫌い、面白くな  
い、疲れる。」といったの月頃にとまったアンケート  
ですけど、「なんで勉強しなくちゃいけないの。」

と小学校1年生がそんな声を上げる状況になっ  
ています。これはやはり真剣に問題をとりえとい  
かなうといけないうことまで来しているなとい  
うことをひびくと思っわけね。

要するに不登校の激増そして低年齢化と認識で  
きる今の子どもたちの変化は何を意味している  
かという点、今日の社会、家庭または保育園の中  
で育つ、その中での子どもの育ちと、学  
校が子どもの中に求めたり子どもに課したりす  
る課題との間に残念だけれどどうも大きなミスマ  
ッチ状況が生じていると私は思うのです。先生  
たちが一生懸命努力しているにもかかわらず、と  
いうべきか、時には努力すればするほど子どもた  
ちが追い詰められてしまうそんなケースもある  
と私は感じるようになりました。

それは学校がいいとか悪いとか、先生がいいとか  
悪いとかという問題ではありません。構造的な問  
題です。社会が変わり子どもや親たちの意識も変  
わる、そして学校もまた情報化社会といわれる中  
で新しい課題を担わなければならぬ。子どもた  
ちの問題を前向きに積極的に受け止めていくよう、  
やはり今の学校の在り方をもっと子どもと親の  
声を聞いてこれをどのようにより良くしていく  
のかということが非常に大きな課題になってく  
るのではないかとひびく思いです。私自身研究  
者としてできるだけリアルに物事をとらえるた  
めに臨場的な現場に立って皆さんの声に耳を傾  
け、子どもたちのカウンセリングを通して子ども  
の声を聴いてきました。それでもやはり研究者の  
感性って限界があるのです。

それでいろんな作家の方の本やエッセイを読む  
のですが、最近こんな面白いので紹介しているの  
が漫画家の石坂啓さんが書いた『学校に行かなく  
れば死なず』と『子ども』という大変ショッキ



今回の定例会は6月28日です。定例会は第四土曜日2時から4時。会場はひかりプラザです。地域を問わずどなたでもご参加ください。参加無料、予約も連絡も不要です。

ングなタイトルの本です。石坂さんは子どもたちの思いをしっかりとらえる漫画家ですけれど、その人が書いたエッセイです。このタイトルの中に私は学校と子どものミスマッチを深くとらえた石坂さんのメッセージを感じました。そこで講演の初めにこの石坂さんの文章を紹介したいと思っています。一人の母親として、そして子どもを深く読み取る一人の漫画家としてどんなことを感じているのか、そのところをちょっと読んでみたいと思います。

「子どもが小学校に上がるようになったとき、私はあまりうれしくありませんでした。いやむしろはっきりと憂鬱だなという気分になりました。あーあ、これからいろいろ小学校と付き合っていくことになるのか……。」

自分がそんなに学校を好きでなかったこと、それは無関係ではありません。（中略）でも子どもがだんだん大きくなって、就学年齢が近づくとつれて、かなりはっきとした輪郭でもって、私は学校に対して危惧するようになってきました。

具体的に心配だなと最初に感じたのは、知人のお子さんたちで『学校と合わない』ケースをかなりの数、聞かされたことです。（中略）

みんな私が尊敬するままのまな分野の方たちです。いろいろ子育てをなわついで、子どもたちもまた素直ないい子ばかりです。素直な子ほどなかなか学校にはそぐわないのびんびん思っているのみなみ不登校を始めたの学校をやめてしまったら。いろいろの話もちろん多く聞きました。

（次回につづく）

カット（むらさきかたばみ）

事務局 石井ひろ子 042-502-7558（留守電にメッセージを入れてください。おりかえします。）さくら草の会のホームページはこちらをご覧ください。

<http://inomck.wixsite.com/sakurasounokai>